

令和7年度 学びの充実あと押し事業
アントレプレナーシップ教育における探究的な学び

実践内容



【廃竹林の再生プロジェクト】

「加速する人口減少」「激甚化する自然災害」といった町の課題を解決するために、放置されている竹林を整備し、伐採した竹を地元企業とコラボレーションして、経済活動につなげていく活動に取り組んだ。

アントレプレナーシップ教育…多様な価値を認め“Well-Being”を達成するためのよりよい社会を築くために、急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神を備えた人材を創出する教育

【メンマ・竹炭づくり】

1学期は、富士見町の廃竹林から産出したタケノコを調理して、地元のラーメン屋さんで「メンマラーメン」として商品化し、多くのお客さんに食べていただきました。

2学期は、竹林整備をしてほしいという高齢者の方の依頼を受けて伐採活動を行い、その竹をさらに細かく切ったり割ったりして、竹炭づくりに取り組みました。3学期はその竹炭を使った販売活動を行います。



【校内研修にて】

校内の先生方を巻き込んで校内研修を行い、竹の専門家に講演をしていただいたり、「竹を森に還す」という見方・考え方をもとに、AIからの情報も活用しながら、先生方と竹の可能性について考えたりしました。

先生方からいただいたアイデアを、クラスの子どもたちに伝え、「消臭効果」「除湿効果」「デトックス効果」など竹の魅力を、どのようにして外部へ発信していくかを検討しました。

成果と課題

総合的な学習の時間の活動を立ち上げる際、私は過去に「町の魅力をたくさんの人に伝える活動をしようと思うけど、どんな活動をやりたいですか？」と発問し、子どものやりたいことから活動を決めだしていこうとすることがあります。それが子どもたちの主体性を引き出していることになると考えていましたが、活動が進むにつれて、子どもたちのやりたいことと私の願いにズレが生じ、子どもたちの意欲が失われていってしまいました。

今年度の活動は、町の課題に頭を抱えている行政の方や、竹林が放置されて困っている地域の方などとの出会いから、使命感をもつことで主体的に活動に取り組む子どもたちの姿がみられたと考えています。人・もの・こととつながることを実感した実践になりました。